

## 仙台市社会福祉審議会老人福祉専門分科会 議事録

日 時：令和4年7月27日（水）

午後3時30分から

場 所：仙台市役所2階第4会議室

### 【仙台市社会福祉審議会老人福祉専門分科会委員】

#### ○出席者

阿部 重樹委員・安藤健二郎委員・猪又隆広委員・佐々木勝司委員・宍戸 衡委員・  
清水 福子委員・山口 強委員

(7名, 五十音順)

#### ○欠席者

(なし)

### 【事務局】

伊藤保険高齢部部長・千葉保健衛生部参事兼健康政策課長

大関高齢企画課長・北村介護保険課長

菖蒲地域包括ケア推進課長・小堺地域包括ケア推進課認知症対策担当課長

古城介護事業支援課長・佐藤高齢企画課在宅支援係長

### 【会議内容】

#### 1. 開会

#### 2. 議事（安藤会長による進行）

会議公開の確認 → 異議なし（傍聴者なし）

議事録署名委員について、佐々木委員・清水委員に依頼 → 委員承諾

#### 高齢者一般調査の実施について

高齢企画課長より説明（資料1）

#### <質 疑>

#### ○清水委員

私もアンケートに答えてみたのですが、字が大きくて本当に今回はすごくよかったなと思いました。

問7, 6ページですけれども、毎日の生活についてというところで、(2)「バスや電車を使って1人で外出していますか」という質問内容ですが、最近よく耳にするのが、バスや電車というか、バス停とか地下鉄まで行くより早いということで、皆さん結構タクシーを利用している方が多いように思います。

ちょっとした買い物でも、スーパーのほうにタクシーを呼んだりとかして買い物をしている方が多いような気がしますので、この質問のところにタクシーという言葉も1つ入れたほうがいいのかと思います。いかがでしょうか。

○高齢企画課長

すみません、こちら、国のほうで決まっている様式になっていまして、加えるところはちょっと難しいかなという状況でございます。

○清水委員

分かりました。

○安藤会長

佐々木委員。

○佐々木委員

今、清水委員からお話のとおり、まず文字も大きくて見やすい。質問内容が個々具体的で分かりやすい。質問して何を求めているのか分からないと回答する人が困難です。そういう意味では、全く清水委員のおっしゃるとおりだと思います。

それで、私のほうからちょっとだけ教えていただきたいということがありまして、まず、13ページをご覧いただきたい。13ページに健康づくりについて記載されております。

それで、(2)ですが、(2)の5番、これは老人クラブ活動への参加の部分、「参加」という言葉をつけてはどうか。(2)は(1)で「はい」と回答した方にお尋ねします。「健康づくりで現在取り組んでいることは何ですか」とあって、老人クラブの活動とあるので、これは何か考え方によると役員に対する照会のようにも取れないこともないのです。

だから、これを老人クラブ活動への参加、「への参加」と入れると、同じことが6番目にも言えると思うのです。これは「参加」というふうな言葉を入れてはいかがかなという気がするのですが。委員の皆様でお伺いしながら、事務局の方にお伺いしたいと思います。

○高齢企画課長

そうですね。参加がありますからね。合わせるという方向で。

確かに上のほうの2番とか3番とかでも「何々への参加」という表現になっておりましたので、委員おっしゃるように、そういう形で合わせるという方向で検討したいと思います。ありがとうございます。

○安藤会長

ほかにはよろしいですか。特にこの白いところは仙台市独自の設問ということですので、変えられる余地はあると。

○佐々木委員

それから、もう1ついいでしょうか。15番ですけれども、15番、地域包括支援センターへの利用となって、今日差し替えていただいた文章ですね。

実は、送っていただいた内容でちょっと分かりづらかったのは、包括支援センターがどのようなことをしているか、それを理解することがまず前提かなど。それを理解した上で、利用したことがあるかないかとか、名前も知らないということでないともまずいのかなというふうな気がしたのでございます。

ただ、今日差し替えに頂いた文章ですと、「名前を知っている、利用したことない、どのようなサービスが提供されているかも知っている」ということで、これですと地域包括支援センターの職務の内容を理解している。

もっとも、(1)の質問のところではそれだということは出ているのですが、地域包括支援センターではこのようなことをしていますが、それをご存知ですかというような項目があると、なお丁寧かなと思ったのでございますが。もちろん差し替え自体がこれで十分というのであれば、それでよろしいかと思うのですが。

実は、私自身が地域包括支援センターの職務をよく理解していないことがこの理由でございます。

#### ○高齢企画課長

こちらについては、前回調査の時にも包括支援センターを知っているか知っていないかというところから始まったの問いに合わせた形で、今回修正しているところでございます。基本的には、そういった過去調査等の継続性というところも鑑みると、現在の形のほうが複雑にならなくていいのかなというところはありますけれども、検討してみたいと思います。ありがとうございます。

#### ○佐々木委員

了解しました。

#### ○安藤会長

猪又委員。

#### ○猪股委員

前者の2人もお話しいただいたとおり、まずは、アンケート自体は本当に文字も大きく見やすくなっていて分かりやすくなっていることが非常に大事かなと思っています。高齢者の方にお答えいただく視点がちゃんと含まれている一般調査になっているのかなと思います。

その中でちょっと気になった点と、仙台市の認識をちょっと伺いたかったのですが、こちらの資料1の前回調査との比較についてのところの最後のページですけれども、この中で問54、問55、この趣旨についての部分が前回調査については設問として挙げられております。

これは、問54の「孤立死についてどのように考えますか」というのは、関係する設問として新調査票の問10(5)と書いてありますところは、おそらく問9(5)ですよ。問9(5)の誤植ですよ、これは。

○高齢企画課長

すみません。はい。

○猪股委員

はい。それで、問9(5)の地域で安心して暮らすためにと問18(1)(2)の終活に改編をしていると。そして、問55も問9(5)の部分で確認をしているということなのですけれども、この中で、コロナ禍ということもあるので、私が認識しているデータだと、仙台市はたしか単身高齢者の方がかなり多い自治体だという認識がございまして、平成30年の仙台市の基礎データなどを見ると、65歳以上のたしか18%ぐらいがその当時のデータでは単身高齢者だということだったので、もし単身高齢者という視点で見たときに、仙台市のほうで新しい数字をお持ちであればちょっと教えていただければと思うのですが。

○高齢企画課長

直近の数字ですけれども、今28.9%という形が、これは65歳以上の高齢者の方に占める独り暮らしの方の割合ということになってございます。

○猪股委員

いつ時点のデータですか。

○高齢企画課長

これが昨年度調査した時の数字になっているのですけれども、先ほど委員がおっしゃっていた、その30年度と全く同じ内容なのかというところはちょっと確認が取れませんでした。と言いますのも、男女で結構開きがあったりしまして、前のものを見たりすると、男性は低かったりして女性と結構差があったりするのです。今申し上げた28.9%というのは合計したものはあるのですけれども、前回のがそれなのかというのはちょっと確認が取れませんでした。

○猪股委員

ありがとうございます。私の数字がちょっと間違っているかもしれませんが、たしか見たときの数字だと平成30年度は独りでお暮らしになっている65歳以上の方が18%ぐらいで、令和3年度の数字だと、純粹に比較はできませんが28.9%ということで、かなり単身の方が増えているようにも見受けられます。

その中で、孤立とか孤独、社会的孤立と言われることもありますけれども、この社会的孤立については高齢者一般調査の中で一部網羅をさせていただいてるのかなと思うのですが、孤独とか孤立死ということに関しては、やはりこれから本市だけではなくて、大変大きな問題になるのではないかなというふうな認識を持っています。

先般、政府のほうでも有識者会議を立ち上げておりますし、また、孤独を抱える方に対していつでも電話をしていいよということで、「#9999」ですかね、新たにこれも今年の7月7日に開設をしたということで先般報道もあった中で、今回、この新調査票の問9の(5)と問18の(1)(2)

に改編をされているのですが、なかなかこの調査を見ると、孤独とか孤立の実態という部分がかかり見えづらくなっているのかなと。前は直接的な聞き方だったので分かりやすかったのですが、そのあたりについてはどういうご認識をお持ちなのか、お聞かせいただければと思います。

#### ○高齢企画課長

孤立死だけではなくて、そのほかにも様々高齢者を取り巻く課題というのは年を追うごとに増えてきていて、やらなくてはいけないことがどんどん出てきているなというのは感じてはおります。

それで、今回の調査がそういった孤立死であるとか、その他高齢者に関する様々な問題に直接的にどの程度有効なのかということころは、結果を見てみないと分からないかなということころはあるのですけれども、いずれにしても出てきた結果を踏まえて、必要であれば追加の調査をするとかそういう形で、目の前にある課題ということころをうちの保健高齢部だけではなくて、それこそ局を挙げて仙台市全庁挙げて取り組んでいかなくてはいけないものだというふうには認識してございますので、今後こういった調査を契機として、そういった関係部局にも声掛けをしながら、我々も様々取り組んでまいりたいと考えてございます。

#### ○猪股委員

ありがとうございます。

この調査の中身ではないのですが、ちょっと調査区についてお尋ねをさせていただきます。

資料の1-2になります。この調査区に関して、今回初めて資料も拝見させていただいたのですが、包括が52圏域ある中で今回18にまとめたということでございます。これは、一応基本的には行政区をまたがないように各行政区内で設定というふうに入っているのですが、包括のまとまり方がちょっと私も不勉強で分からないところなのですが、例えば16番の愛宕橋包括は、これは若林区のほうじゃなくて太白区のほうでいいのかとか、あとは、例えば10番の小松島包括という、これは鶴ヶ谷とか燕沢というエリアと一体になっているのですが、これはこの位置付けでいいのかとか、この行政区というのは5区の話をしていると思うのですけれども、そう考えたときにこの包括の捉え方というのはまた違う部分があるのかというのは、お答えをいただけますでしょうか。

#### ○高齢企画課長

まず、先ほど委員のほうからもお話ありましたように、行政区、それからその包括圏域というところを意識して、今回種類分けしてございます。

お話のありました愛宕橋のところに関しましては、八木山とか山田、それから人來田含めて高齢化率が高くてもいずれも40%を超えているような地域であると。坂道も多くて、なかなか身体能力機能が低下してくると外出が難しい環境にある地域だなということころから、運動機能とか閉じこもり傾向、それから認知機能の傾向など、類似した特徴を有する地域だというふうに想定しておりまして、1つの調査区としたところでございます。

それから、小松島のほうにつきましては、東照宮駅の東側、JR東北本線東仙台駅の北側に

位置しており、市営バスは、地下鉄旭ヶ丘駅とか台原駅、それから東仙台営業所前を発着する便があって、交通のアクセスは比較的良好な地域であると。自由が丘とか安養寺といった50年前ぐらいにできた団地が連なっている地域だということなので、こちらやはり高齢化率が高くて、運動機能とか認知機能、それから社会参加状況など、こちら共通に類似した特徴を有するものと想定しておりまして、1つの調査区としたところでございます。

○猪股委員

今の10番の小松島は、東照宮駅と近くてアクセス的にはかなりいいというお話だったのですが、私の認識だと燕沢地区なんかは独自でバスを走らせてたりしている、いわゆる市営バスが通らない地域だったりもするので、アクセス的には交通の便がいいかどうかという、あまりアクセスがよくないからこそ燕沢地区の住民の皆さん、独自で生活の足を確保したりとかということに取り組んでいる地域だというふうな認識を持っていたので、できることならばこの1番から18番までどういう理由でこういう調査区の区分けになったのかということも本審議会とかで資料として出していただけると、委員の皆さんも共通して、ああ、こういう区分けなのねということに分かるのかなと思ったので、意見を述べさせていただきます。

○安藤会長

いかがでしょうか。

○高齢企画課長

分かりました。今手元のほうに、その辺の区分けの状況資料がございますので、ちょっと時間がかかるかもしれないですけども、順番に読み上げてもよろしいでしょうか。

○山口委員

後で配付していただければ。

○安藤会長

後で、資料は頂けますか。

○高齢企画課長

分かりました。後日、こちらのほうで整えて、郵送という形になろうかと思いますが、送らせていただきます。

○安藤会長

はい。では、山口委員、どうぞ。

○山口委員

関連していいですか。今、委員のおっしゃることに関連して。

こちら一番最初に、この18区の1地区に対して650人となっていますよね。ということは、

例えばこの包括の下の数字というのは、こちらで説明があるように高齢者数になっていますよね。高齢者数が例えばここの包括は何人だ、何千人だとなっているのですけれども、この選び方としてどうやって選ぶのかというか、例えば1番だと3,300という数字があります。これを全部ひっくるめてこの中から650人を選ぶのか。それともこれを按分して、この総数の650人ということによろしいのですか。

○高齢企画課長

総数になります。

○山口委員

そうですね。この1調査区の全部の数の650人ですね。分かりました。  
ほかの質問よろしいでしょうか。

○安藤会長

はい。山口委員，どうぞ。

○山口委員

15ページの認知症についての質問事項ですけれども、実は最近、認知症の人と私に関わっている機会が多くてちょっと肌で感じることで言うと、この3つ選ぶのですが、この一番上にこれを持ってこないで、順番はできれば3番を一番上にさせていただいて。というのが、要するに順番から追っていくんですよね、大体アンケートというのは。追っていくのだけれども、すごく3番が重要なことに最近感じているのですよ、実際に関わっているケースを見ると。

それから、3番、4番がものすごく大事なことで、地域の人たちが認知症について正しい知識を持って理解してくれることというのはちょっと下のほうでも。確かに地域の人が見守っていくのは大事なのだけれども、やはり一番大事なのは、しつこいようですが、できるだけ早い段階からというのがすごく感じます。

それをやはり質問の1番にさせていただくという、そういうことを考えていただいたほうが、アンケートというのは1番から見ていきますと、1番からマルつけちゃってもまあいいや、3つだからこれ以外ないやというふうになっちゃうじゃないですか。私の最近の体験から言って、そういうふうにしていただいたらいいかなという感じを受けました。

○安藤会長

今の質問についてはいかがでしょうか。

○山口委員

変えられないのでしょうか，これ。

○高齢企画課長

並びなので、できないことはないと思いますので、ちょっと内部のほうでも検討します。

○山口委員

すぐ検討していただけますか。多分、これは先生も感じられるかもしれないけれども。やはり1番は専門家にすぐ診てもらおうということが、認知症の人というのは自分は認知症だと思っ  
ていませんから。ですから、いかに病院に連れて行って、いかに診断してもらってということ  
を、本人に認知症だよというのを少しずつ少しずつ分かってもらうということが大事なので、それ  
を感じました。

○安藤会長

ありがとうございます。

日々認知症の方々を拝見している身からしますと、1番はやはり認知症になった方ご本人の不  
安というのが非常に強いですね。アルツハイマー型だと自分は認知症でないというふうに思っ  
ている方は多いのですが、薄々何かやはりおかしいなということで非常に不安なのです。本人  
に関するような設問というのが1番重要なのだと思います。その後、家族、それから地域という  
ような、そういう感じの順番なのかなというふうに。ご参考にさせていただいて。

○高齢企画課長

ありがとうございます。

○安藤会長

ほかにいかがでしょうか。佐々木委員，どうぞ。

○佐々木委員

19ページ，終活についてお尋ねします。

何かこのほかに付け加える点がないのかなと思ってこれを拝見しました。例えば，(2)の  
ところで，「既に行っている，または近いうちに始める予定である」と回答した方はどのような終活  
を行っていますかということがありますけれども，これが終活をするに際してこういうことも  
必要なかという観点から質問内容に入れてはどうかと思ったのでございます。

具体的に申しますと，相続財産の整理（遺言書の作成，生前贈与なども含む）とありますけ  
れども，実は私，終活をいろいろ考えると，例えば，遺言書の作成，相続，保険，印鑑・通帳  
の保管場所とか，これらが必要なんだということを知ってもらうために，括弧書きにあえてこ  
れを入れるのはどうかと。ただ，くどくなりますよ。

それから，8番のその他で網羅しています。例示した上で，8番でその他ですよ。だから，  
くどくなるのかもしれないけれども，財産の整理の中に遺言書の作成のほかに，例えば相続保  
険とか印鑑・通帳とか，これの存在場所がどこにあるかというふうなことも括弧書きの中に入  
れたらどうかというふうな気がしたのですが，いかがでしょうか。

○安藤会長

事務局，どうでしょうか。

○高齢企画課長

確におっしゃるとおり、その人によって自分がやっていることが果たして財産の整理に入るのかどうか分からないという人もあろうかと思しますので、そういった事例として多く出すというのはとてもいいのかなとは思のですが、おっしゃるとおり、なかなか文面が多くなってしまったりとか読みづらくなったりというデメリットも考えられるので、その辺ちょっと我々のほうで一度落としてみて、どういう感じになるかというのを見ながら調整させていただければと思っております。

○佐々木委員

ありがとうございます。

○安藤会長

そのほか、いかがでしょうか。清水委員，どうぞ。

○清水委員

8ページの「今後取り組んでみたい社会参加活動は次のうちどれですか」の質問ですけれども、ここで私もいろいろなところにはマルしたのですが、今とても多いのが子育て支援。高齢者が子育て支援とか、子ども食堂、居場所づくりに取りかかっているのがすごく最近多いのです。子ども食堂が特に多くなりまして、もちろん若いお母さんたちも子ども食堂には携わっているのですが、意外と高齢の方が子ども食堂に参加しているということを最近感じていますので、どうでしょうか、回答の部分に1つ付け加えてもらってはいかがでしょうという私の思いです。

○高齢企画課長

そうですね。確かに子供の部分とかは全然入っていないのでバランス的にあってもいいかなというふうにも思うのですが、その辺ちょっとちょうどページの区切りにもなっているのでうまく入れられるかどうかもやりながら。あとは、その他の部分でもしかするとそういったところが入ってくるかもしれないな、とは思ってはいるのですけれども、ちょっと検討させていただければと思います。

○清水委員

ありがとうございます。

○安藤会長

清水委員は、実際に調査に記入されたということでしたが、何か答えにくいようなところとかありますか。

○清水委員

ほとんど答えましたけれども、4ページの間5ですかね、体を動かすことについてということ

で、例えば1番「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」というのに、ちょっと回答のところが「えっ、えっ」と思ったところがあるのですけれども、例えば1番の「できるし、している」、「はい、昇れます」のほうが簡単でいいかなというふうに思ったのですが、でも、この質問が次のページも同じような回答だったので、考えて書いてくれたのかなと。例えば、7ページのところも「できるし、している」「できるけどしていない」、全てこうなのですね。

○高齢企画課長

そうですね。この形態です。

○清水委員

ですので、私は「できる」にしましたけれども。ちょっとあれかなと思って、「はい、昇れます」のほうがいいし、2番目だったら「時々つたわりですけども」みたいな、3番は「つたわらないと昇れない」とかちょっと感じたところだけですけども。

○安藤会長

この辺はなかなか国からの設問で難しいですか。

○高齢企画課長

そうですね。国のほうの様式になります。

○山口委員

「できるし、している」というのはちょっとね。

○安藤会長

ぜひ国に上げていただきたい。

宍戸委員からは何か。

○宍戸委員

毎回、私、施設にいるので、施設の方の代理で記載するのです。回を増すごとに書きやすくなっているのですが、今年フォーマットを拝見しますと大変見やすいし、ここで言うところのご本人様を書けない場合は代理の方に書いていただいても構いませんよとか、できれば代理の方が書いて出してくれるとうれしいですというやつで書いていると思うのですけれども、こういった文面であれば、代理の方の記載も増えるかなと。前は結構分かりにくかったりとか、これは紙媒体だけじゃなくてネットでも回答できるようなシステムですか。

○高齢企画課長

紙だけです。

○宍戸委員

紙だけですか。残念ですね。だって、間16でSNSとか使ってますからね。団塊の世代の方たちも入ってきているから、もう中には私なんかより全然パソコンとか携帯の解説していらっしゃる団塊の世代の方もいらっしゃるのです、何か回答方法を、もし本当に回答を集めたいとか回答数を伸ばしたいのであればそういった両極で、もちろん紙媒体でされる方はそれはそれでいいと思いますし、インターネットで回答ができると言ったらさらに回答する方たちの数が増えるんじゃないかなあというふうに、私もちょっと事業所でやっている、パソコンでできるというのだけだなというところもあって、今回の調査に反映できるかどうかは把握しかねる部分ですけども、回数を重ねるごとに、対象とされる方たちの世代も変わってくる、バックグラウンドが変わってきますから、そういったことも取り入れていったほうがよろしいのじゃないかなと。

せっかくいろいろなことを考えてこれだけのアンケートを作られたわけですから、国から出されたものを右から左しているのではなくて、仙台市でも独自にいろいろ考えて、このところを考えてというのであれば、なおのこと回答数を、目標6割かもしれませんが、もっともっと回答数が多いほうが精度も高くなるでしょうし、実際に数字としても説得力のある数値になってくると思うし、それを反映させていったことで市民の方たちの信頼だったりとかということも獲得できるかと思しますので、そういったところもご検討いただけるとぜひいいかなというふうに思います。

アンケート自体はとても見やすくなって本当にいいなと思いました。以上です。

#### ○安藤会長

ありがとうございます。インターネットでの回答なども将来的には検討の余地はありますでしょうか。

#### ○高齢企画課長

そうですね。貴重なご意見ありがとうございます。我々のほうとしてもやはり当然、今後に向けてはそういった電子媒体なども使っていかなければいけないと思っていますし、それに向けてこれから国のほうにもいろいろ出していきたいと思っておりますし、我々のほうで独自にできるものであればそういったところも含めて考えていながら、より良い皆さんが答えやすいような形での調査というのを目指していきたいというふうに考えてございます。

#### ○安藤会長

ありがとうございます。猪又委員、どうぞ。

#### ○猪股委員

今の宍戸委員のご意見に関連してだったのでですけども、私も宍戸委員の意見に賛同するものです。

特に今、多分皆さんが思っている以上に、インターネットショッピングを楽しんでいる高齢者の方も多くいらっしゃいますし、また、今年度ですか、商店街等でデジタル商品券の取組なども仙台市でも進めるということも伺っておりますので、そういった形で行政とし

てもデジタルの仕組みというのを進めているのであれば、ぜひこういったアンケート用紙も含めて、紙でも答えられるしデジタルでも答えられるというのがやはり望ましい仕組みではないかなと思いますので、私も同様の意見でございます。

その上で、問16の「活用しているか」を伺っている中で、今、行政のほうでもたしか支援をしていましたし、それぞれの携帯とかのキャリアの皆さんにもお手伝いをいただいていると思いますが、こういうインターネット教室というかスマホ教室みたいなものがあつたと思うのですけれども、これは老人クラブのほうでも結構やっていたかと思っております。ただ、実際そういったところにどのくらい行ったことがあるかというか、そういった部分を含めて、これだけの設問だとどの程度活用しているのかが本当に見えるのかなという設問になっていたので、それこそ(2)のところ、そういった教室に行ったことがあるかどうかということも含めて入れていくことが、これからの令和の時代にとっては取っていくべきデータの1つかなということとは個人的に思っていました。その点はいかがでしょう。

#### ○高齢企画課長

我々のほうでも、今、高齢者のデジタルデバイドの解消とか、あと、例えばeスポーツを活用した介護予防とかどんどんデジタルを使って施策を展開していこうというところは考えているところがございます。今回はあくまでもその入口の、本当に入口の一步目のところで聞いている感じではあるのですけれども、そういったスマホ教室であったり、実際にどういった教室とかそういう学びの場を求めているのかとか、そういうのがもし聞けるのであれば聞いてみたいという思いは当然私どものほうでも思っております。

なので、この辺をどこまで広げられるかというところはちょっとまだ分からないのですけれども、その辺もちょっと考えてみたいと思います。

#### ○猪股委員

今お答えを頂いたとおり、それこそ本当にeスポーツなどは認知症予防みたいなのところでも一定の効果があるみたいなことで、今取り組まれている自治体もあると聞いておりますので、こういった「どの程度活用していますか」の後に「皆さんはどういう活用がしたいですか」みたいな質問というのも、一步踏み込んだ設問ということであってもいいような気がするのです。その点についてはご検討いただければと思います。以上です。

#### ○高齢企画課長

ありがとうございます。前向きに検討してみたいと思います。

#### ○安藤会長

では、佐々木委員。

#### ○佐々木委員

よろしいでしょうか。今、事務局のほうから聞いてみたいようなお話だったのですけれども、本来とはちょっと関連するだけのことなのですが、老人クラブとしてもスマホ教室をやるとい

うことで今募集しているところです。

青葉・宮城・太白と5区あるではないですか。3人ずつ15人希望者を募ってスマホ教室をやる計画を具体的にやっています、それぞれ独自に今の時代に合うようにやれることはやろうの方向でやっているというのが、やりたいなというのが本音。それでどれだけそれが活用されるかは別にして、とにかく一歩でも二歩でもやろうという考えでいることは事実です。今のお話にあった、聞けるのであれば聞いてみたいなに対する回答です。よろしくお願いします。

#### ○安藤会長

ありがとうございます。SNSだのブログ、LINEなどをお使いになる方は五、六十代でも67%とかというのが、総務省からそういうデータが出ています。そういう方々が70になったらやめるわけではなくて、ずっとお続けになるのだらうと思うので、毎年毎年やはり年齢が上がっているということは、使える方々がどんどん増えているとなるので、今回は間に合わないかもしれませんが、次とかというところで現実的な集計をしたりとか、いろいろな設問を、さらにいろいろなものを聞けるようなものを。

阿部委員からはどうでしょうか。今のことに関してでなくても結構でございます。

#### ○阿部委員

委員の皆さんがおっしゃられているように、大変見やすいアンケートになったと私も実感しています。

それから、ご質問に触発されたり、それから会長のコメントとかにかなり教えられるところがありました。

網掛けのところはどうしようもないということだったのですが、ちょっと残念かなと思ったのが2つほどあったのでコメントですが。

問4ですけれども、問4の(1)ですが、項目に挙げても答えないかなという気はするのですが、いわゆる8050とか6090とかに該当する回答項目があってよさそうな気がしています。おそらく息子・娘との2世帯には入らないんだらうという気がしています。答えないかもしれないという気もします。

もう1か所は、タクシーの件が出たときですが、これも本日の次第の3の報告があるので、むしろその括弧の中がなかったほうが、別立てのほうが調査対象が違ってくるので、バスや電車を使う人だけと自家用車というのが分けられていたら面白かったらうなという。

それから、終活のところ、私の経験からいってもなるほどなと思ったのは、意外と遺言書とかに出てこないことが結構あって、例えば包括的に相続するというのは結構やられるみたいなのですが、そうしたときに子供たちとかが困るというのは、例えば登記簿とかがどこにあるのかわからないのか分らないと、それなりの専門家を立てて頼んでもう一度法務省のところで登記簿を再発行してもらおうような手続き。

だから、登記簿とかもありますし、それから、書けないということで残念だなというふうにするのですが、終活に入っていくときに、例えば通帳とか親と一緒に生活してないどこにあったのか分らない。それは何らかの機会であったほうがいいだらうなと、終に至る前に、脳血管の病気とかで倒れられて、意識とかあるいはコミュニケーションが取れなくなってそのま

ま亡くなったという場合に、病院に入院したときにお金をどうしようと、通帳がないとかで子供たちが家を家探しするとか、そのようなことも時たま聞きますので、そういうのもガイドで、この次当たりできるだけ丁寧に入れられてたほうが、ここで具体的に申し上げると、子供たちとの話合いみたいなものもあつたほうが良いような気がします。

あと最後ですが、スマホ教室ですが、コロナウイルスがまん延する前、実は大学でも近隣の町内会、近隣住民の高齢者の方にご希望を聞いて、情報科学科とかあるんですね。その学生さんが高齢者の方をお教えするという、すごく女子学生とか身近で教えてもらうというので好評でした。そういう試みとかもあるという、面白いので、積極的な何かを、提案とか意見でなくて申し訳ないのですが。

#### ○安藤会長

いろいろ重要なことを頂いたと思います。事務局として何か付け加えたりとかはございますでしょうか。

#### ○高齢企画課長

問4とか問7のあたりというのは、先ほど申したように国の様式というところもあるのですが、我々としても、この出てきた結果の中からそういったところが少しでもあぶり出せればというところはトライしてみたいかなとは思ってはおります。

それから、問18ですか、終活のところについては、これはまさに出てきた結果を踏まえて、今後何らかの施策をやっていく中で終活も今はもうタブーではなくて、残された人たちのためにやっていかなくてもいけないことだということ、高齢者の方々に向けて、何かそういった講座をやるとかそういう周知を図っていく際に、どの程度皆さんがこういったところに関心があって、どこまで知っているのかということ、まず把握したいということもあって今回の問いになっている部分でございます。阿部委員がおっしゃるように、それこそ通帳とか登記簿とか、本当に現実的なところでたくさん課題はあると思っております。

いずれはそういったところにも踏み込んだ対応ということ、我々としても考えていきたいと思っております。そのための足がかりというか、今回がそういった調査になるといいなというふうに考えてございます。

あと、スマホ教室についてもやはり同じでございます。今後に向けて連携してやっていけるように頑張ってもらいます。ありがとうございます。

#### ○安藤会長

ありがとうございます。本当に終活という言葉そのものが認識されて普通になって、我々もコロナ前は仙台市医師会と仙台市で終末期医療に関する講演会とかやって、延命治療をしたくないとかというのをどういうふうに表すのかというのをいろいろ検討していたのですが、コロナで止まってしましまして、またこれをやっていかなきゃいけない。

医療のこともそうですが、今、阿部先生がおっしゃるような財産のこととかいろいろなことを、ちょうどいい機会なのだろうと思うので、コロナがそういうことを推し進めてくれる可能性があるんで、そういったきっかけになるような、アンケートの設問もいいのではないかなと

思っています。これがまたさらに次の市の施策とかそういったものにつながるように足がかりにしていければなど、大事なアンケートかなというふうに思います。

大体時間が、議事として検討する時間を過ぎました。これで議事は一応終わるということにさせていただいて、次は報告に入りたいと思います。

### 3. 報告（安藤会長による進行）

敬老乗車証制度のあり方検討に向けたアンケート調査の実施について  
高齢企画課長より説明（資料2）

<質 疑>

なし

### 4. その他

○安藤会長

次に、4. その他に移ります。

事務局からは何かございますでしょうか。

○保険高齢部長

本日は、高齢者の一般調査の関係で様々な有意義なご意見を頂きましてありがとうございます。

本日頂いた意見を基に、我々のほうでアンケート調査票の修正案を検討させていただいた後、今年度末からこの調査を基に計画の議論を始めるというスケジュールを考えますと、もう一度分科会にお諮りしてというのがなかなか難しいものですから、我々のほうで修正案を作成した後、会長とご相談をさせていただいて、それにて調査票のほうを確定させていただくという形を取らせていただきたいというふうに考えてございますが、そのような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

○安藤会長

よろしいでしょうか。会長の責任重大ですが。

〔「異議なし」の声あり〕

○安藤会長

分かりました。では、そのようにさせていただきます。

委員の皆様方からは何かございますでしょうか。

では、事務局にお返しいたします。

### 5. 閉会